

『命への共感』を胸に



豊岡市長 中貝宗治

年

あいさつ

昨年、放鳥コウノトリのペアからヒナが誕生し無事に巣立ちを迎えたニユースは、全国を駆け巡り、日本中が歓喜に包まれました。テレビはトップで伝え、新聞は大きく紙面を割き、市役所には各地から続々と祝電が寄せられました。

広い日本の片隅で起きたたった一羽のヒナの巣立ちが、なぜ、あれほどまでに感動を与えたのか。私は、その感動の根底に「命への共感」があったのだと思います。

互いに交替しながら、エサを運び、ヒナを守る親鳥。雨の日には傘に、日照りの時は日よけになり、ヒナを狙うトンビやカラスにはくちばしを打ち鳴らして威嚇します。懸命に、そして、寄り添うように2カ月。今度は巣から離れて巣立ちを促します。高い巣の上から下を覗き込みながら、何度も浮き上がり、飛行の練習をする幼鳥。「がんばれ、がんばれ！」誰もが応援していました。それは、「命への応援」であり、「命への共感」でありました。

予定よりも遅れた巣立ちに、人々はやきもきしていました。いつになったら巣立つのだろう。栄養が不足しているのか。ひよつとするとこのまま巣立たないのではないか。そんな周囲の不安をよそに、何の前触れもなく、幼鳥は突然大空に舞い上がりました。皆が一様に驚きの声を上げ、青空をバツクに悠々と飛ぶその姿に心から拍手を送ったのです。

その時を冷静に迎えていたのは、コウノトリの飼育に人生の大半を注ぎ込んできた松島興治郎さん(コウノトリ文化館長)でした。彼はサラッと言いました。「巣立ちを決して遅くはなかった。あの子にとっては、普通だったよ」

小さな命、大きな命、私たちの周りには、さまざまな命があります。強いもの、弱いもの。急ぎがちに成長するもの、ゆっくりと成長するもの。それぞれがそれぞれの歩みを進めながら、しかし、互いに支え合って生きている。そうしたことを改めて考えさせられた出来事でした。

昨年、市政にはいろんなことがありました。いいこと悪いことのどちらもありましたが、そのすべてが、市民一人ひとりの暮らしに直結する大切な問題でした。もう一度足元を見つめ直し、豊岡に暮らすさまざまな「命」にしっかりと目を向けながら、まちづくりに取り組んでいきたいと思えます。

「命への共感」、そのことを教えてくれたのも、コウノトリでした。

この一年、豊岡に住む誰もが一つずつ年を取りました。新たに誕生した命もあり、他方で去っていかれた命もありました。平成20年、新しい年。一つひとつの命がそれぞれにふさわしい輝きを放ちながら、総和として、豊岡が活気に満ちた一年になりますように。今年も、共に歩んでいきましょう。

新 年頭のご



豊岡市議会議長 川口 匡

夢のあるまちづくりに向けて

あけましておめでとうございます。市民の皆様には、ご健勝で希望に満ちた初春を迎えられたこととお慶び申しあげます。

昨年は、総合健康ゾーン整備事業や稲葉川土地区画整理事業をはじめ、木屋町小路建築工事、たんたん温泉施設建築工事の起工等、懸案事業が大きく前進するとともに、図書館城崎分館および但東分館の完成、さらに福住地区交流センターや各地区公民館整備など、市政全般に著実な進展が見られました。

台風23号による災害復旧についても、国・県をはじめ市当局の並々ならぬご尽力により、痛ましい災害の傷跡はほぼ消え、元の美しい姿が見られるようになりました。

また、新生豊岡市のまちづくりの指針となる「総合計画」が策定された年でもありました。目指すべきまちの将来像を「コウノトリ悠然と舞う ふるさと」としており、私たちはこの将来像の実現を目指すこととなります。さて、新しい年を迎え、本市では引き続き行財政改革に取り組んでいくこととなります。が、昨年末に公表された兵庫県の新行革プラン素案による市民生活や市政運営への影響が心配される所です。

特に、医療・教育・福祉分野などにおいては、市民生活に多大な影響が及ぶことが懸念されることから、本市議会も兵庫県市議会議長会を通じて兵庫県に対し、見直し等の緊急

要望を行ったところであります。

本市の実質公債費比率が、適正ラインとされる18パーセントを超えて19・7パーセントになったことは周知のとおりで、私たちは深刻な財政状況を認識するとともに、早期改善に取り組まなければなりません。

また、少子高齢化や過疎化の進行をはじめ、公立病院の医師不足や後期高齢者医療制度、さらに、バス路線の縮小など、行政課題が山積しております。

とりわけ、新庁舎の建設は、市民の皆様最大の関心事ではないかと存じますが、現在、当局において、位置・規模・機能など基本的事項の検討が行われております。

年末までには具体的な候補地が明らかになるものと考えますが、市議会も庁舎建設調査特別委員会を中心に慎重な議論を重ね、新しいまちづくりにふさわしい位置決定となるよう、適切な判断をいたしたいと存じます。

地方分権の進展により、議会の役割が一層高まるなかで、当局に対する監視機能を強化するとともに、議会自らの改革はもとより、一層の活性化を図ってまいりたいと考えます。豊岡市議会といたしましても、市民福祉の向上と夢のあるまちづくりに向け、心新たに

努力、邁進してまいる所存であります。皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申しあげ、新年のごあいさつといたします。

(写真:平成19年12月4日、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された出石城下町にある辰鼓楼)